

令和5年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査の結果の公表にあたって

武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていたるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています

令和5年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立御船が丘小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H30 入学 現 6 年生	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	全国 (4月)
	63.5 (0.97)	66 (0.97)	48.1 (0.96)	62 (1.02)
	R5 正答率の全国比		0.98	0.99

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・全体の正答率は県平均を下回っている。
- ・学習指導要領の内容別では、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」において、それぞれ県平均を 0.2 ポイント上回っているが、「書くこと」においては 3.4 ポイント下回っている。
- ・問題形式では、短答式において県平均を 6.7 ポイント下回っている。
- ・県平均より無解答率の高い問題が多い。

【算数】

- ・全体の平均正答率は県平均を 1 ポイント上回っている。
- ・学習指導要領の領域別では、全ての領域において県平均を上回っている。
- ・「複数の棒グラフを読み取り違いを記述する問題」において無解答率が高い。

【意識調査】

- ・「5年生までに受けた授業でのタブレットの使用頻度」について、「週3回以上使用した」と答えた児童の割合は 60.3%で、県平均を 19.1 ポイント上回っている。
- ・「月曜日から金曜日までの1日あたりの勉強時間」について「30分より少ない」と答えた児童の割合は 21.7%で、県平均を 5.7 ポイント上回っているが、令和4年度調査結果との比較では 6.7 ポイント改善している。
- ・「土曜日や日曜日の1日あたりの勉強時間」について「1時間より少ない」と答えた児童の割合は 45.2%で、県平均を 5 ポイント下回っており、令和4年度調査結果との比較でも 11.7 ポイント改善している。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・学力向上対策評価シートの共通実践では、「教育の質の向上に向けた個別最適な学びと協働的な学びの充実」を設定している。校内研究を活用し、学力向上に向けて全職員で授業改善に取り組む。
- ・自分の考えをもとに、友達や教師と学び合う時間を持ち、主体的・対話的な学びを促す発問や働きかけの工夫を取り入れた授業づくりを行う。
- ・端末の活用を取り入れた予習学習など目的を明確にした家庭学習や一人学びの手立てを行い、児童の主体性を引き出す。
- ・端末を利用した授業内容と家庭学習の内容を連動させることで、学校と家庭での学びの連続性を図り、基礎学力の定着を図りたい。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習の時間が県や全国よりも短いことから、家庭での計画的な時間の使い方や家庭学習への取り組みませ方にも工夫をする必要がある。
- ・スマホやタブレットなどの ICT 機器との付き合い方について、情報安全教室や道徳、総合的な学習など保護者との連携を密にしながら取り組んでいく必要がある。